

第8話：ベルちゃん、やさしさを届けに来る人

ベルちゃん——それは、うちの猫たちにとって、
飼い主以上にやさしいまなざしを向けてくれる人。
去年は、月曜日から金曜日まで、雨の日も、雪の日も、嵐の日も、
毎日お昼に、ベルちゃんはやってきてくれた。

お昼ごはんと遊びの時間。
その光がなければ、きっと仕事を続けることはできなかったと思う。

今年は、私の勤務も非常勤となり、火曜日から木曜日だけの出勤に。
ベルちゃんも、それに合わせて週に3日、変わらぬやさしさを運んできてくれている。

本業は、老猫ホームの運営。今のところ、そこには一匹の老猫だけがいる。
名前は、こんちゃん。16歳の雄猫。
かわいい首輪をつけてもらって、まるでお殿様のように大切にされている。
ベルちゃんがこんちゃんを抱き上げると、
その姿はまるで、自分と同じくらいのサイズの猫を抱いているように見える。
それほどに、ベルちゃんは小柄でかわいらしい。
ジーンズ姿が似合って、首元がレースの黒いタートルネックがとても映える。

そんなベルちゃんには、秘密がある。
実は——漫画のお話を作るのが得意で、その物語には彼女自身が主人公として登場する。
白い質素なドレスを着て、スナフキンに恋する女の子として。
その物語の中のベルちゃんと、現実のベルちゃん。どちらも本当のベルちゃん。

うちの猫たちの中では、とりわけビオラちゃんがベルちゃんに一番甘える。
ぽーちゃんとアビイちゃんに飼い主を取られているような気がするのだろう。
だからこそ、ここぞとばかりに、ベルちゃんのひざに飛び乗って、とろけるような顔で
甘える。
そしてベルちゃんは、静かに笑って、いつもの声でこう言うのだ。
「はいはい、ビオラちゃん、今日もかわいいね」
それは、やさしさを届けに来る人の声。
そして、猫たちの午後に吹く、あたたかな風の音。